

スイス・レーティツェ鉄道

近藤 節夫

鉄道王国スイスでも長い歴史と伝統を誇る山岳鉄道、レーティツェ鉄道は、その可愛らしい真っ赤な車体と車窓風景の美しさから世界中の鉄道ファンの垂涎の的となっている。とりわけスイス・アルプスの山岳美を車窓からふんだんに見せてくれるのは、サンモリッツとイタリアのティラノを結ぶベルニナ線である。

昭和54年(1979年)6月、このレーティツェ鉄道と日本の箱根登山鉄道が姉妹鉄道契約を締結した。縁あってこの契約に多少関わったことにより、その夏日本から派遣された姉妹鉄道締結記念ツアーにお伴する機会に恵まれた。始発地のティラノや、終点のサンモリッツでは、現地の観光協会から心温まる歓迎を受け、一行はサンモリッツ周辺の山々へロープウェイで案内されてスイス・アルプスの絶景を欲しい份にし、チーズフォンデュで歓待されたことを懐かしく思い出す。

そのベルニナ線には、13年後の1992年に今度はサンモリッツからイタリア側へ下って行った。サンモリッツ駅と最高標高(2,253m)駅オスピツィオ・ベルニナ駅に掲げられた、日本語で書かれた「レーティツェ鉄道・箱根登山鉄道姉妹鉄道締結記念」プレートを見て感慨に耽ったものである。このエポックメークな姉妹鉄道締結を記念して、現在箱根登山鉄道では「ベルニナ号」と称するレーティツェ鉄道と同じ、レッド・カラーの電車を運行して乗客を楽しませてくれている。

僅か61kmの行程内に高度差1,800mの昇降を繰り返し、アルプス山塊を潜り抜け、目まぐるしく移り変わる左右の車窓からは雪山、森林、滝、氷河、湖水、牧草地等の大自然をたっぷり楽しむことができる。イタリア・ティラノ寄りのブルジオとカンパスチオ間の石造りのオープン・ループブリッジは鉄道ファンならずとも、カメラファンにとって格好の被写体として人気を集めている。列車もその辺りは心得ていて大きなカーブを描くとき、徐行しながらシャッターチャンスに余裕を持たせてくれる。景色を見せてくれるばかりでなく、窓を開け身体を外へ乗り出してカメラを駆使する時間もたっぷりとってくれる「おもてなし」の心は、やはり観光立国スイスらしいきめ細かな配慮であると感心する。

このレーティツェ鉄道が何とこの夏「世界遺産」に登録されたのである。ひとつの民間企業が事業活動している姿が世界遺産に登録されること自体、極めて珍しい。これは、とりもなおさず「大自然＋世界遺産的風景」を誰でもが楽しめるように考え開発し、進んで提供したレーティツェ鉄道先人たちの努力の結晶であろう。

おかげで、個人的な記録「世界遺産見学数」も、タナボタ式に今夏「141」箇所となり、目標の「150」へさらに一歩近づいた。